

災害レジリエンス共創センターキックオフシンポジウム

「災害レジリエンスの共創と防災総合知構築への挑戦」を開催しました（2022/5/11）

テーマ：災害レジリエンス、防災総合知、災害デジタルツイン構築プロジェクト、共同研究、産学官連携
場所：オンライン

令和4年5月11日（水）、「災害レジリエンスの共創と防災総合知構築への挑戦」と題し、災害レジリエンス共創センター設立のキックオフシンポジウムを、オンライン形式で開催しました。本シンポジウムでは、江川新一センター長より、災害レジリエンス共創センターの設立経緯と、多様な主体との連携により災害レジリエンス向上のための「総合知」を探求し社会に実装するという理念について、越村俊一副センター長より、具体的な研究構想と総合知を活用するためのシンボルプロジェクトである「災害デジタルツイン構築プロジェクト」の計画について報告しました。

基調講演では、「災害レジリエンスをどうとらえるか」と題し、国立研究開発法人 防災科学技術研究所理事長 林春男様より、災害に対するレジリエンス能力（自助・互助・共助・公助）のあり方、災害レジリエンスを高めるためのデジタルツインの活用、および防災科学技術研究所が目指すレジリエンス共創の仕組みについてお話いただきました。

続いての「災害レジリエンスの共創と防災総合知構築への挑戦」をテーマとしたパネルディスカッションでは、災害レジリエンス共創センターの4つの重点研究領域（「災害レジリエンス数量化」、「ヒューマンレジリエンス」、「災害情報キュレーション」および「災害レジリエンス共創」）の領域長と、東北大学が連携協定を締結した防災科学技術研究所の研究者が、多様な知が集う場においてどのような「協働」が必要か、多様な専門知を総合知の活用に向けどのように貢献するかについて、活発な意見交換を行いました。このディスカッションにより、「専門領域」の枠にとらわれることなくレジリエンス最大化のための研究を推進し、社会実装に向けた具体的な取り組みを通じて社会の変革をもたらす、という共通認識を得ることができました。

また、全国の研究者との災害レジリエンス共創に向けた公募研究である「災害レジリエンス共創研究プロジェクト」募集についてのご案内、および民間事業者様との連携体制構築（レジリエンス共創パートナー）をご紹介しました。

本シンポジウムには、文部科学省より研究振興局大学研究基盤整備課 課長 黒沼一郎様、防災科学技術研究所から林春男理事長、安藤慶明理事、防災情報研究部門 副部門長 田口仁様、地震津波火山ネットワークセンター 主任研究員 久保久彦 様、東北大学から大野英男総長、小谷元子理事にご参加いただきました。あわせて全国の大学、研究所、企業、自治体など多方面から約300名のご参加をいただき、これからの「災害レジリエンス共創センター」の取り組みを幅広くご報告する機会となりました。

文責：越村俊一、武田百合子（災害レジリエンス共創センター）
（次頁へつづく）



大野総長による開会あいさつ



文科省 黒沼課長によるあいさつ



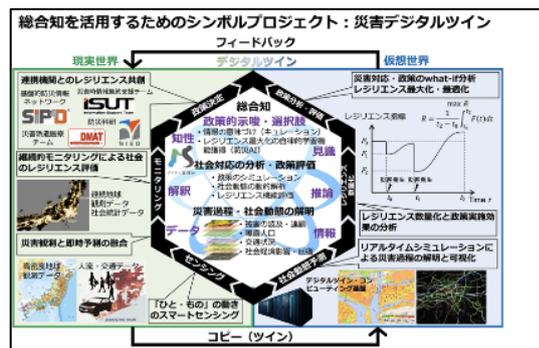
防災科研 林春男理事長による基調講演
 「災害レジリエンスをどうとらえるか」



江川センター長による趣旨説明



越村副センター長による構想説明



シンボルプロジェクト
 「災害デジタルツイン構築プロジェクト」

TOHOKU UNIVERSITY

5. パネルディスカッション
 「災害レジリエンスの共創と防災総合知構築への挑戦」

パネリスト：
 災害レジリエンス数量化研究領域 越村 俊一 教授
 ヒューマンレジリエンス研究領域 江川 新一 教授
 災害情報キュレーション研究領域 奥村 誠 教授
 災害レジリエンス共創館 小野 裕一 教授
 防災科学技術研究所 防災情報研究部門 副部門長 田口 仁 様
 防災科学技術研究所 地震津波火山ネットワークセンター 主任研究員 久保 久彦 様

防災科研研究者とのパネルディスカッション



今村所長による閉会のあいさつ